

背景・目的

市内における抽苔危険期（5月下旬～7月初旬播種）の基幹品種‘カイト’（株サカタのタネ）は、晩抽性は非常に優れていますが、乾燥しやすい圃場条件等により収穫サイズに至らない事例があるなど栽培が難しい側面があり、より安定生産が可能な品種を望む声があります。そこで、灌水量を‘カイト’の適量よりも意図的に控えて管理し、‘カイト’の生育が停滞する環境でも安定して収穫可能な晩抽品種を検討しました。

結果

‘カイト’を含めた8品種について、以下の3作期で試験し、晩抽性が‘カイト’並であり、高温乾燥条件でも生育が止まらず収穫サイズまで育ちやすい‘**TSP-594**’（タキイ種苗株）を有望品種として選定しました。
【作期1：5月25日播種，作期2：6月15日播種，作期3：7月5日播種】



TSP-594（作期2）

TSP-594 の特性

高温乾燥条件でも生育が止まらず、抽苔危険期も収穫が可能

日長が長く、最も抽苔しやすい作期2では、平年より高温で、乾燥条件も加わったため、‘カイト’の伸びが遅く、抽苔期¹に至った一方で、‘TSP-594’は生育が止まらずに、抽苔期前に収穫サイズまで育ちました。
（¹ 抽苔期：調査株の40%の株が抽苔した日）

		抽苔率									
播種後日数(日)		0~24	25	26	27	28	29	30	31	32	33
カイト		0%	0%	5%	8%	10%	18%	20%	35%	38%	40%
	高温+乾燥	→		生育停滞 伸びが遅い			→				
TSP-594		0%	3%	5%	8%	15%	15%	収穫			
	高温+乾燥	→		順調に生育			→				

調査終了

‘カイト’が問題なく収穫できる条件下では、一株重が‘カイト’より軽く、収量性も劣る

作期2以降よりも気温が低い時期である作期1では、控えめの灌水量でも‘カイト’は問題なく収穫できました。この条件下で‘TSP-594’は、‘カイト’よりも収量性が劣りました。

作期	品種	収穫日数(日)	草丈(cm)	一株重(g)	調製前収量(kg/a)	調製後収量(kg/a)
作期1	カイト	35	26.9	27	240	180
	TSP-594	35	27.0	23	206	143
作期2 ²	TSP-594	29	26.6	16	134	99

2：作期2は、抽苔期に至った‘カイト’の収穫調査を行っていないため、データなし

結果の活かし方

抽苔危険期に‘カイト’の栽培が難しい圃場では、安定生産が可能な‘TSP-594’を推奨します。一方、高温期前の栽培（作期1に該当）や、‘カイト’でも問題なく栽培できる圃場では、多収を望める‘カイト’を栽培するなど、栽培時期や圃場の傾向により両品種を使い分けることを推奨します。